

トランジション・タウン藤野の理念と活動者の生活の変化

畠山 祐一

The concept of Transition Town Fujino and the change of life of civic activists

Yuichi HATAKEYAMA, FSIFEE, Tokyo Gakugei University

現在の大量生産・大量消費型社会システムは、資源の浪費、気候変動、生態系の破壊、経済格差の拡大、さらには人間の心の問題など、様々な問題を多くはらんだシステムである。このような社会システムを維持し続けることができた要因の一つが、石油への依存である。石油の生産量は近い将来減少に転じると言われており、転じる前の頂点を「ピークオイル」という。ピークオイルを迎えると石油価格が高騰し、食料生産、製造、輸送、暖房など、生活のあらゆる面で大きな影響が及ぶ。

トランジション・タウン（以下 TT）とはピークオイルと気候変動という二つの大きな危機を受け、石油に依存した社会から、持続可能な社会・生き方にトランジション（移行）していこうというイギリスで始まった市民活動であり、社会実験である。本研究では、日本の TT 活動の中でも最も先駆的のもののひとつである TT 藤野を取り上げる。

本研究では、活動者の理念理解と生活での変化について関係を分析し考察する。本研究はこれまで研究があまりなされてこなかった日本における TT の研究の一助となるとともに、市民が行うまちづくり活動として、TT がどれくらいの有用性があるかを示す一助になると考えている。

本研究では、神奈川県相模原市緑区藤野地区を中心に活動する TT 藤野の活動者を調査対象とした。藤野地区は神奈川県の最北西端に位置し、自然豊かな里山の風情を残す土地である（図 1）。また、自然志向の高い移住者が多く、自然と暮らしに関わる市民活動も盛んな地区であ



図 1 神奈川県相模原市藤野地区の位置



図 2 TT 藤野活動の様子



図 3 TT 藤野のワークショップの様子

